

平成29年度 学校自己評価票

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の指導力向上</li> <li>・就学前教育のセンター的機能の充実</li> </ul>
----	--

分 掌 等	
幼稚園部	

( 1 枚中 1 枚目)

年 度 当 初				年 度 末		
重 点 目 標	目標達成の具体的方策	め ざ す 姿	評 価 基 準・指 標	年度末評価	評定	次年度への課題
職員の指導力向上とともに、就学前教育におけるセンター的機能の一層の充実を図る	<p>&lt;職員の指導力向上&gt;</p> <p>○現職教育の在り方を工夫し、職員の指導力向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経年研修の対象職員を中心に、継続的に研究授業や公開授業を行う。</li> <li>・幼児の姿を的確にとらえ、授業実践を行うとともに授業改善に取り組む。</li> <li>・幼児についての情報交換会を定期的に開催することで、全職員が全幼児の実態を把握し指導の統一を図る。</li> <li>・これまでの実践のまとめを基に、保護者連携の在り方について振り返り、実践を深める。</li> </ul> <p>&lt;就学前教育におけるセンター的機能の充実&gt;</p> <p>○「保護者との連携」の成果を活用し、関連機関と情報交換の場を積極的にもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「にこにこ教室」における関連機関との連携の場を積極的に設ける。</li> <li>・香特研早期教育部会の研修会で発表する。</li> <li>・幼稚園HPを活用して、具体的な支援の方法や支援グッズを積極的に情報を発信する。</li> </ul> <p>○県内全域の幼稚園、保育所の指導者や保護者を対象とした研修会を実施する。</p>	<p>○現職教育の年間計画を作成し、職員研修や研究授業、情報交換の会を計画的に実施することができる。</p> <p>○親子活動だけでなく、授業中での幼児の姿を具体的に伝え、学びの状況を共有できる伝え方の工夫を行う。</p> <p>○保護者連携の取組の成果を他機関（幼稚園・保育所、福祉サービス機関等）に発信する。</p>	<p>○職員研修会や研究授業、情報交換会の実施状況。</p> <p>○研修会等での発表や、ケース会等による関連機関との連携の実施状況。</p> <p>○HPの更新状況。</p> <p>○指導者研修会の実施状況</p> <p>保護者研修会「オリープ教室」の実施状況</p>	<p>&lt;職員の指導力向上&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者とともに子どもの学びや育ちを支援することに視点を当てて指導に取り組んできた。家庭からの情報収集の仕方・授業実施後の子どもの変容の伝え方を工夫し、日々の生活に活用してもらえるよう授業実践を繰り返した。指導者間での話し合いの時間を確保し、幼児の実態把握や特性の理解が深まった。また、授業の全体像をビデオで撮り、具体的な場面をもとに検討を重ね、指導方法の改善が図れた。</li> <li>・現職教育で「保護者支援」について研修し、日々の保護者との会話や関わりに役立てることができた。</li> <li>・香川大学の学生を9月から12月まで、16回程度受け入れた。子どもの実態や特性などを具体的に伝え、一緒に関わるなかで職員の研修にもなった。</li> </ul> <p>&lt;センター的機能の充実&gt;</p> <p>HPの閲覧や本校開催の研修会への参加をきっかけに、幼児への関わり方や、指導に関することで、電話での問合せや来校での相談を申し込む方の割合が増えた。HPでは、支援ツールの具体的な使い方の説明を掲載し、保育士より参考にしているとの評価を得た。 <li>・早期部会と連携した県内の指導者研修会では、7月に講演会（約130名）、11月に研修会（約50名）を行った。保護者研修会は、12、1月も開催。保護者企画の「座談会」を追加し年間7回実施し延べ110名の参加を得た。</li> </p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新教育要領に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、これまでの実践をより充実させていく。幼児の実態の把握に努め、学習活動をととして、何が身に付いたかを的確に評価し、改善を加えられるよう研修を深めていきたい。</li> <li>・就学前定期的教育相談についても、引き続き親子活動を実施し、保護者支援の実践を深め、センター的機能の充実を図りたい。</li> </ul> <p>具体的な方策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現職教育を充実させ、研究授業をととして、職員の指導力向上を図る。また、幼児の実態把握と共通理解に努めるとともに、行事や教育活動の精選を図る。</li> <li>・HPを定期的に更新して情報の発信をしたり、保護者研修会をそれぞれのニーズに応じて実施することで、センター的機能の一層の充実を図る。</li> </ul>
	中間評価 (10月末現在)	<p>進捗状況： a 概ね順調 b やや遅れている c 目標の見直し</p> <p>&lt;職員の指導力向上&gt; りんご組、はなな組で「運動・リズム」、「造形」、「日常生活の指導」において6本の研究授業を実施。授業後は職員全員で討議会を実施し、活発な意見交換がなされた。また、他学部職員の意見やアドバイスも得られ、より良い反省ができた。改善点を明確化し改善授業を実施した。</p> <p>&lt;センター的機能の充実&gt; 幼稚園HPの行事における支援の手立てを更新した。研修会については、香特研早期教育部会と連携し、7月に県下全域の幼稚園・保育所の指導者対象の講演会（参加者約130名）を実施。また、子育て支援課からの依頼を受けて本校を会場に県内の障害児保育に関わる保育士の研修会を開催した。約50名参加者。幼稚園職員全員で、学習環境や支援グッズを紹介し、情報発信に努めた。保護者研修会は、6・10月に保護者座談会、8・9月には講師を招いての講話を開催し延べ約90名の参加を得た。</p>				

【評定】 A：十分達成(100%程度) B：概ね達成(80%程度) C：変化の兆し(50%程度) D： まだ不十分(30%程度)

平成29年度 学校自己評価票

目 標	基本的な生活習慣の育成と社会生活に適應する能力や態度を養う。
-----	--------------------------------

分 掌 等	
小学部	

( 1 枚中 1 枚目)

年 度 当 初				年 度 末		
重 点 目 標	目標達成の具体的方策	め ざ す 姿	評 価 基 準・指 標	年度末評価	評定	次年度への課題
児童の「自分から・自分で」を育てる指導の充実。	<p>○児童の実態把握を的確に行い、「自分から・自分で」主体的に取り組むための学習内容や指導方法を検討する。</p> <p>○授業実践では、3つの観点「知識・技能」「表現力・判断力・思考力」「学びに向かう人間性・意欲」から評価を行い、授業改善に取り組む。</p> <p>○研究として取り組む教科等を学年団（チーム）で決めて研究授業を行い、各教科や教科等を合わせた指導の充実を図る。</p> <p>○研修では、児童の実態に即した指導内容を深めるために、研修内容の検討を行うとともに、グループで研修に取り組む。</p>	<p>○教科や、教科等を合わせた指導の単元や題材の学習内容や授業の組み立ての検討を行う。</p> <p>○3つの観点を意識しながら学習内容を考え、PDCAサイクルで授業実践に取り組む。</p> <p>○教師集団（チーム）として、主体的に授業研究に取り組み、指導力を高める。</p> <p>○教員が「主体的に、教員間で協働し、研修内容を深める」研修を行う。</p>	<p>○学習内容を検討したり、教材教具を工夫することができたか。</p> <p>○学習を3つの観点から評価することができたか。</p> <p>○学年団で授業について、話し合いや討議を行い、チームとして取り組むことができたか。</p> <p>○必要な研修内容を計画し、実践することができたか。</p> <p>○研修等では、グループ討議の中で、意見交換を行うことができたか。</p>	<p>○児童の実態把握のためのアセスメントとして「太田ステージ評価」を実施するための研修を行った。</p> <p>○学級で一つずつ授業研究を実施し、各教科等の検討を行うことができた。</p> <p>○研究授業等の指導案に3つの観点を取り入れて評価を行うことで、少しずつ意識することができた。特に児童が「自分から」活動に取り組んでいるかを評価しながら改善授業を行うこともできた。</p> <p>○学年団で取り組む教科等を決めたことで、研究授業を中心に話し合い、団として取り組み成果を挙げた。</p>	B	<p>○個々の児童のアセスメントを実施し、一人一人のニーズに応じた目標設定、指導内容の見直し、教材教具の工夫に取り組む。</p> <p>○新学習指導要領の移行期間である2年間、教育課程等について検討する。特に、児童の特性や障害の多様性に応じた、各教科等の指導の充実に努める。</p> <p>○児童の主体的な学びを目指した授業づくりに向けて、教員も主体的、協働的に取り組むとともに、学部として研修を行う。</p>
	中間評価 (10月末現在)	<p>B</p> <p>学年団で研究する教科等を決め、話し合いを重ねながら、授業実践を行っている。2年団は「生活単元学習」について2学級がそれぞれ研究授業を行ったが、単元の組み立てや、児童が「自分から」活動するための、グループ編成、教材等を工夫し成果をあげることができた。他の学年団も、個別指導ではなく、「遊びの指導」や「国語・数学」の教科の指導を、集団の中での学びを深めるありかたについて、団で検討しながら取り組んでいる。三つの観点別評価については、さらに意識して明確にしていく必要がある。</p> <p>研修では、連携訪問を利用して体面で支援が必要な児童へのアプローチを行ったり、巡回相談を利用して言語療法士の先生から、言語面で支援が必要な児童への支援の在り方と、全教員への講話をいただき専門性を高めることもできた。授業を見合う時間を確保しながら、他校への公開授業へも4名ほど参観するよう計画している。</p> <p>今後は、児童の実態把握のためのアセスメントの研修や、児童の実態に合わせた教育課程についても検討する必要がある。</p>				<p>○研修では常にグループ討議を行うことで、活発な意見が交わされ、共通理解をするきっかけとなった。また、外部講師を招いたり、校内の人材を活用したりすることで、実践だけでなく、理論についての研修を深めることができた。</p>

【評定】 A：十分達成(100%程度) B：概ね達成(80%程度) C：変化の兆し(50%程度) D： まだ不十分(30%程度)

平成29年度 学校自己評価票

目標	基本的な生活習慣の定着をはかるとともに、社会自立に必要な能力や実践力を養う。
----	--

分 掌 等	
中学部	

( 1 枚中1 枚目)

年 度 当 初			年 度 末			
重 点 目 標	目標達成の具体的方策	め ざ す 姿	評 価 基 準・指 標	年度末評価	評定	次年度への課題
<p>○生徒の実態に応じた進路指導を実施する。</p> <p>○教科等を合わせた指導の充実を図る。</p>	<p>○生徒の実態や適性を把握することに務め、作業学習等で進路を見据えた取り組みに生かす。</p> <p>○進路指導部からの情報を積極的に取り入れる。教員が進路についての研修を深める。</p> <p>○課程別グループを構成し、研修、協議を計画的に実施する。情報交換の時間や知識を深めるための現教の時間を有効に活用する。授業公開については、1日授業を自由に見学できる日を設定する。</p>	<p>○進路に関してだけでなく、個々の生徒についての情報を学年で共有し、共通理解を図る。</p> <p>○保護者に情報を発信できるようにする。</p> <p>○単元設定や支援の在り方について課程ごとに研究を深め、「わかる、できる、考える」につながるよりよい授業を実践する。</p>	<p>○実態や適性を把握し、共通理解の下、進路を見据えた取り組みができたか。</p> <p>○保護者への情報提供ができたか。</p> <p>○現教の時間を有効に活用し、研修を深めることができたか。</p> <p>○年間学習指導計画に活かすことができたか。</p>	<p>○作業学習だけでなく、日常での生徒の実態把握に努め、進路を見据えた指導を実践することに努めている。</p> <p>○作業学習に関しては進路を見据え、取り組み方を改善していく。</p> <p>○現教の時間には高等部主事の話や高等部の授業を見学する機会を設け、生徒の進路について研修できる機会を設けることができた。</p> <p>○学年、課程ごとのグループで研究を深めることができた。生徒についての情報交換の良い機会にもなった。相互公開授業に参加し、他の特別支援学校の授業を見学する教員も増えた。</p>	B	<p>○生徒についての情報は学年で共有し、一貫した指導を行う。</p> <p>○教員が専門性を身につけ、日々の授業実践や保護者との話し合いにも活かせることは大切である。</p> <p>○作業学習については、生徒が様々な作業種を計画的に体験できるようにする。</p> <p>○領域別の指導の自立活動について、身体面での課題をもつ生徒も増えていることもあり、現教でも取り組んでいければと思う。</p>
中間評価 (10月末現在)	<p>進捗状況：      a 概ね順調                  b やや遅れている                  c 目標の見直し</p> <p>・各学年で週1日の作業学習で生徒の実態を把握し、職場見学や集中作業など、進路について考える学習に活して取り組んでいる。職員に向けて、高等部主事に時間を取ってもらい、高等部の教育課程や進路学習について話してもらった。</p> <p>・学年ごと、家庭ごとのグループを作り、情報交換、協議を行った。また、各課程で研究授業を行い、討議も実施した。また、相互公開授業にも10月末時点で3名が参加している。</p>					<p>○今年度のように、グループ別の授業研究や研修を実施し、自立活動の取り組みについて検討していく。また、生徒についての情報交換も行う。</p> <p>○作業学習を学年で固定していくように取り組む。</p>
具体的な方策						

【評定】      A：十分達成(100%程度)      B：概ね達成(80%程度)      C：変化の兆し(50%程度)      D： まだ不十分(30%程度)

平成29年度 学校自己評価票

目標	人間性を高める活動を通して、社会参加と自立に向けて必要な生活習慣や態度を育てる。
----	--

分 掌 等	
高等部	

( 1 枚中1 枚目)

年 度 当 初				年 度 末		
重 点 目 標	目標達成の具体的方策	め ざ す 姿	評 価 基 準・指 標	年度末評価	評定	次年度への課題
○生徒の自己有用感を育て、それぞれの課題に積極的に取り組める心を育てる。	○新しい類型の総合・技能類型について、指導内容を検討し2年次に適切な類型を設定することができるようにする。  ○性に関する指導について、各学年・類型で公開授業を行いさらに体系的な指導を深める。	○それぞれの実態に応じた行事や学習内容を設定し、生徒のもっている力を引き出せる学習が展開できるようにする。  ○性に関する指導を通じて、生徒が自分とともに相手の心と体を大切に思う心を育てる。	○新しい類型の取り組みにより生徒がスムーズにいきいきと学習活動に取り組むことができたか。  ○年度当初と年度末にアンケート調査を実施し、生徒が自己肯定感や自己有用感を感じることができたか調査する。	新しい総合・技能類型については、おおむね当初のねらいどおり生徒の様子をじっくり観察し、実践することで今までよりもスムーズに適切な類型に移行して2年生への進級ができそうである。ただ、今年からの取り組みであるため細かい点では修正が必要であり、今年の反省を踏まえ、より良い取り組みができるようにしたい。 性に関する指導については、生徒が自分とともに相手の心と体を大切に思う心を育てるところまでには至っていないが、3年生は卒業前に外部講師を招いて「素敵な男性・女性になるために」の講演を聞いたり、1,2年生は全学年・全類型で公開授業を実施し、研鑽を深めることはできた。公開授業は、授業日を同一の日にしてしまったためにそれぞれの授業を指導者が見学することができず、公開授業を開催する日や実施方法などについては今後検討が必要である。 自己肯定感や有用感の年度末のアンケートは実施しているところである。	B	先生方がそれぞれの学年や類型で実践していることを公開授業にしてもなかなか指導者同士で見合って意見を交わすことができず、その結果体系化することが難しい状況である。ある程度類型の形が落ち着いてきたところで、それぞれの類型の指導内容について体系化していくことが今後の課題である。
中間評価 (10月末現在)	進捗状況： a 概ね順調 <input checked="" type="radio"/> b やや遅れている c 目標の見直し  新しい類型の総合・技能類型については、本校になじまない生徒が数名はいるものの当初の目的を踏まえて順調に学習を進めている。2年生に向けて類型の先生方を中心にクラス編成や学習内容の検討も進めている。生徒もおおむねスムーズにいきいきと学習活動に取り組めており、5月に行った自己肯定感・自己有用感調査では高等部の総合、技能、生活A類型の75%程度の生徒が自分のことが好きで、学校や住んでいるところで自分が役に立っていると感じていることが分かった。性に関する指導については、公開授業の予定等がまだ未定で、やや遅れている。					具体的な方策

【評定】 A：十分達成(100%程度) B：概ね達成(80%程度) C：変化の兆し(50%程度) D： まだ不十分(30%程度)

平成29年度 学校自己評価票

目標	業務の効率化を図るための体制作りに取り組む。
----	------------------------

分掌等	
教務部	

( 1 枚中 1 枚目)

年度当初				年度末		
重点目標	目標達成の具体的方策	めざす姿	評価基準・指標	年度末評価	評定	次年度への課題
<p>○校務支援システムの導入を図るための準備を進める。</p> <p>○教材等の購入、点検、整理の作業を円滑に行う。</p> <p>○ミスのない正確な書類等の作成や期限内の提出を心掛ける。</p>	<p>○校内LANの教務関係のデータや保存期間が過ぎた紙媒体の文書や諸帳簿等の整理をする。</p> <p>○平成30年度から開始される校務支援システムのための検討委員会を立ち上げる。</p> <p>○教材等の購入、点検、整理についてのマニュアルを全学部で作成するとともに、学部間での情報交換の機会を設ける。</p> <p>○各係間の連携や共通理解を図る。</p> <p>○作業等の記録を残すとともに必ず確認作業を行う。</p>	<p>○係間の連携と情報の共有を図ることにより、新しいシステムへのスムーズな移行を目指す。</p> <p>○幼児、児童、生徒の教育活動に必要な教材・教具等が常に整理、分類、補充されている。</p> <p>○正確かつ迅速に作業を進めることができる。</p>	<p>○混乱なく校務支援システムをスムーズに取り入れることができるための体制作りができたか。</p> <p>○教材等を定期的に分類、整理し、消耗品の補充を行う。</p> <p>○文書や諸帳簿を期限内に提出することができたか。</p>	<p>○スムーズな校務支援システムの導入のためにメディア部、保健指導部と連携を図り、基礎情報等の入力作業を順次進めることができた。</p> <p>○職員会議や朝礼で、新しく購入した教材備品やその活用方法などの周知を必要に応じ行うことができた。</p> <p>○提出期限内に、文書や諸帳簿における記述の誤りを訂正し作成を完了した。</p>	B	<p>○校務支援システムを活用しての帳簿等の作成手順を周知を徹底する。</p> <p>○来年度も引き続き、教材の分類、整理を適宜行い、必要な教材は計画的に購入を進める。</p> <p>○迅速かつ効率よく作業を進めるために、教務全体で必要な情報を共有する。</p> <p>○個別の教育支援計画の作成や管理について相談支援部と連携を図り、その十分な活用を目指す。</p>
<p>中間評価 (10月末現在)</p>	<p>進捗状況： a 概ね順調 b やや遅れている c 目標の見直し</p> <p>校務支援システムの導入準備については、11月に実施される業者の説明会に参加した後、メディア担当との打ち合わせを行い準備作業に入る予定である。</p> <p>教材備品等の整備については、教材の活用を進めるために備品を整理し一覧表の改訂版を作成した。</p> <p>諸帳簿の作成については、各担当者が随時記入内容をチェックするなど順調に作業を進めることができている。</p>			<p>具体的な方策</p> <p>○校務支援システムをスムーズに運用することができるように検討委員会を適宜開く。</p> <p>○次年度も教材等の管理を行うとともに、活用方法なども合わせて周知する機会を設ける。</p> <p>○書類等の作成や管理において必要があれば他の分掌とも連携を図る。</p>		

【評定】 A：十分達成(100%程度) B：概ね達成(80%程度) C：変化の兆し(50%程度) D：まだ不十分(30%程度)

平成28年度 学 校 自 己 評 価 票

目 標	教員の資質向上のための研修計画の立案・実行および必要な情報の提供を通じてその充実を図る
-----	---

分 掌 等	
研究部	

( 1 枚中 1 枚目)

年 度 当 初				年 度 末					
重 点 目 標	目標達成の具体的方策	め ざ す 姿	評 価 基 準・指 標	年度末評価	評定	次年度への課題			
<現職教育> 全校研究テーマに基づき、各部の重点目標をふまえた研究テーマに沿って、現職教育の実践を行う。	○研究テーマを共通理解し、各部の重点目標に沿った研究授業を行う。 ○幼稚部から高等部に至る系統性のある指導へと生かす機会として、各部での公開授業を計画・実施する。 ○各部間の研修に関する情報交換の手段として、また特別支援教育に関する情報提供の手段として、校内LAN等を活用する。 ○年度末に部ごとの実践報告会を行うなど成果をまとめる。	○各部の重点目標を念頭に置き、幼児児童生徒の実態に応じた研究テーマのもとで授業研究を推進する。 ○各部間の情報交換に努める。 ○研修に関する情報等を積極的に収集・公開するとともに、関係分掌と連携した研修の計画・実践をする。	○各部の特性に応じた研究授業を行う。 ○各研修後、校内LANの情報更新・周知を行う。 ○所属部外の授業が参観できるように、公開授業の日程・方法等を具体的に計画する。 ○研修後の評価やアンケートにより、次年度の現職教育計画を作成する。	○全体テーマ「自己肯定感を高める指導の在り方」を踏まえて、幼児児童生徒の実態に応じた研究テーマを各部で設定し、研究活動に取り組むことができた。 ○公開授業・研修会等の周知・情報提供をNASや掲示板等を利用して行うことができた。 ○公開授業の方法を検討し、「校内公開授業日」として実施した。	B	○各部の連携を密にするとともに、全体テーマを踏まえた各部の研究活動の充実を図る。 ○公開授業・研究授業の在り方を具体的に検討し、よりよい現職教育の機会として活用する。			
中 間 評 価 (10月末現在)	進捗状況： a 概ね順調 b やや遅れている c 目標の見直し			○全校テーマ「自己肯定感を高める指導の在り方」を掲げ、各部がそれを踏まえたうえで部の研究テーマに従った研究授業を実施している。 ○自身の所属以外の部の指導実践に触れる機会として、部ごとに校内授業公開日を設け公開授業の実施及び参観を行っている。今年度は、略案(指導案)を準備しない形で、各部の実情に合わせてできる限り多くの授業の公開を目指している。実施方法については、後日アンケートを取るなどして検討する予定である。 ○主に県内での研修会について、職員朝礼等の機会に周知している。職員室東側の掲示スペースを情報発信に活用している。			具体的な方策		
重 点 目 標	目標達成の具体的方策	め ざ す 姿	評 価 基 準・指 標	年度末評価	評定	次年度への課題			
<図書> 図書室を整備し、児童生徒に対する広報活動を行う。	○図書室内部の机や椅子を整備し、幼児児童生徒が利用しやすいようにする。 ○幼児児童生徒のニーズに合った図書の選定をし、整理する。 ○読書活動のポスター製作を行い、配布や掲示をする。	○図書の充実を図り、図書室として利用しやすいように整理する。 ○図書室としての活動を、児童生徒に周知する。	○図書室として機能しやすいよう整備する。 ○読書活動推進のポスターを適切に発行し、掲示する。	○図書室の絵本スペースの床マットを新しくスペースを広げたり、図書室の椅子を増やしたりすることで、幼児児童生徒が利用しやすい空間を整備することができた。 ○大きく破損したり古くなったりした図書を各部の図書係で確認して廃棄したり、各部の実態に応じた図書を計画的に購入したりすることで、図書室に置く図書の充実を図ることができた。 ○年2回の読書週間を計画、実施することで幼児児童生徒が図書に親しむ機会を作ることができた。	B	○児童・生徒に対して、図書室利用の広報活動をする。 ○様々な分野の図書を集め、その充実を図る。			
中 間 評 価 (10月末現在)	進捗状況： a 概ね順調 b やや遅れている c 目標の見直し			○6月に校内読書週間を設け読書週間のポスターを制作して校内に掲示したり、図書室前等に「読書の木」を準備して、そこに幼児児童生徒が読んだ本の題名や感想等を書いたカードを貼ったりすることで読書活動を推進した。 ○各棟に読書活動推進のポスターを選定して掲示した。 ○図書室に置く本の充実を図るようにした。			具体的な方策		

【評定】 A：十分達成(100%程度) B：概ね達成(80%程度) C：変化の兆し(50%程度) D：まだ不十分(30%程度)

平成29年度 学校自己評価票

目 標	学校教育におけるICT活用の推進。情報機器の維持・管理 情報セキュリティの維持・管理。 外部への情報発信
-----	--

分 掌 等	
メディア教育部	

( 1 校中 1 校目)

年 度 当 初				年 度 末		
重 点 目 標	目標達成の具体的方策	め ざ す 姿	評 価 基 準・指 標	年度末評価	評定	次年度への課題
<p>○本校ホームページを通しての情報発信。</p> <p>○情報セキュリティの徹底。</p> <p>○情報機器の適切な維持・管理</p> <p>○ICT教育の推進。</p>	<p>○ホームページの更新を確実にするため、メディア教育部内に専任の係を置く。また、各校務分掌や部活動の担当からも原稿を収集して適宜ホームページに掲載していく。更新担当者は本校ホームページ全体に目を配り連携を密にして常に新しい情報を本校ホームページに掲載できるように努める。</p> <p>○情報セキュリティの実施手順の順守について全職員に定期的に注意喚起を行うとともに、状況に応じてセキュリティ対策の強化を実施する。</p> <p>○教員用パソコン等の情報機器を適切に管理する。また、管理を徹底できるように全職員へ適宜、周知する。</p> <p>○情報機器・視聴覚機器の貸し出しルールを周知徹底する。</p> <p>○授業に役立つアプリを導入したり、実践例を紹介したりしてiPadの利用を促進する。</p> <p>○メディア教育だよりの発行や校内研修会を通じてICT教育の推進を図る。</p>	<p>○本校ホームページの継続的な更新を通して、情報発信をする。</p> <p>○情報セキュリティの厳格な順守。</p> <p>○情報機器、視聴覚機器の適切な管理と効果的な活用。</p> <p>○iPadの活用を中心に本校児童生徒の実態に即した情報機器の活用について研究・実践する。</p>	<p>○本校ホームページの継続的更新。</p> <p>○情報セキュリティ実施手順の順守。状況に応じたセキュリティ対策の変更及び強化。</p> <p>○教員用パソコン・情報機器・視聴覚機器の適切な維持管理と活用。</p> <p>○iPadの効果的な実践事例の蓄積。</p>	<p>○メディア教育部内においてホームページ専任の係を置き、各部門・各校務分掌間で連携をしながら更新作業を行うことができた。今後も行事紹介・情報発信等にホームページを活用していきたい。</p> <p>○各部に配布しているiPadのネット接続・アプリダウンロード・本体管理等を行った。また、導入アプリ希望調査を元に、有効活用できるアプリを導入することができた。無料アプリ・有料アプリとも必要に応じて導入できる体制を整えることができた。</p> <p>○メディア教育部主催のICT研修会では、多くの本校教員が参加してiPadの活用について研修することができた。来年度以降も実施していきたい。</p> <p>○教員用パソコン関連のセキュリティアップデート等を周知し安全な運用に努めた。また、教員用パソコン関連の問い合わせに適宜対応した。</p> <p>○情報機器・視聴覚機器の運用管理を行った。</p>	B	<p>○ホームページの更新手順について各部担当者が習得するとともに、担当者間で共通理解を図ることで負担を減らし、更新頻度を上げる。</p> <p>○iPadのネット接続環境の改善とスムーズなアプリダウンロード。</p> <p>○教員用パソコン・情報機器・視聴覚機器の適切な維持管理</p> <p>○iPadの活用等、ICT教育の充実。ICT研修会の実施。</p>
中間評価 (10月末現在)	<p>進捗状況： a 概ね順調 b やや遅れている c 目標の見直し</p> <p>○メディア教育部内においてホームページ専任の係を置き、各部門で連携をしながら更新作業に従事する体制を作った。また、各分掌とホームページ更新の連携をすることで、年度当初の基礎データを更新したり、おたより等を定期的に更新したりすることができた。今後も各分掌・各部と連携しながら、行事紹介・情報発信・各種ご案内・イベント告知等にホームページを活用していきたい。</p> <p>○各部に配布しているiPadの導入アプリ希望調査を行い、有効活用できるアプリを導入することができた。無料アプリ・有料アプリとも必要に応じて導入できる体制を整えることができた。</p> <p>○メディア教育部主催のICT研修会を行い、多くの本校教員が参加してiPadの活用研修をすることができた。2名の講師が午前と午後に分かれて研修を受け持ち、活用事例を参考にしながら実際にiPadを操作することでより実践に役立つ研修を行うことができた。来年度以降も実施していきたい。</p> <p>○教員用パソコン関連のセキュリティアップデート等を周知し安全な運用に努めた。</p> <p>○教員用パソコン関連の問い合わせに適宜対応した。</p> <p>○情報機器・視聴覚機器の運用管理を行った。</p>					<p>具体的な方策</p> <p>○メディア教育部内のホームページ担当者に向けて、ホームページの更新方法やアップロード方法について研修を行う。また、年度当初に詳細な更新計画を立案して、メディア教育係以外の更新担当者（各部・各校務分掌）にも周知することにより、確実に更新作業を行う。</p> <p>○ネット接続環境の改善は困難であるが、iOSと教育用アプリの相性等を考慮しながらアプリの充実を図る。</p> <p>○メディア教育部内で連携しながら、引き続き教員用パソコン・情報機器・視聴覚機器の適切な維持管理を行う。</p> <p>○ICT研修会を立案・実施する。</p>

【評定】 A：十分達成(100%程度) B：概ね達成(80%程度) C：変化の兆し(50%程度) D： まだ不十分(30%程度)

平成29年度 学校自己評価票

目 標	人権尊重の精神を基盤として、いきいきと心ゆたかにたくましく生きる幼児児童生徒を育成する。
-----	--

分 掌 等	
人権・同和教育部	

( 1 枚中 1 枚目)

年 度 当 初				年 度 末		
重 点 目 標	目標達成の具体的方策	め ざ す 姿	評 価 基 準・指 標	年度末評価	評定	次年度への課題
○幼児児童生徒への人権教育の充実 ○マスコットキャラクターを活用しての人権啓発スローガンの浸透 ○教職員・保護者研修の充実	○昨年度の年間指導目標を点検して、幼児児童生徒の実態に合っているかどうかを確認して、本年度の年間指導目標を作成し、実践する。  ○各部にマスコットキャラクターを積極的に活用するよう周知する。 ○他校からの情報収集や、研修会での情報などを参考に、教職員・保護者研修の充実を図る。	○幼児児童生徒が、自尊感情を高め自ら生きる力を養えるようにする。 また、人とつながることを喜びとする心豊かな人権感覚をもてるようにする。 ○人権を大切にした教育環境を構築する。	○各部全てにおいて年間指導目標に沿った人権に関する授業の取り組みができたか。 ○マスコットキャラクターの活用機会が増えたか。 ○教職員・保護者研修会のアンケートにより評価する。	○各部とも計画通りに人権に関する授業を実施できていた。 ○マスコットキャラクターの活用は今年度、中学部生徒会といっしょにあいさつ運動を3回程度行った。次年度以降も続けていきたい。 ○人権感覚チェック表の回収率は中学部で70%を下回った。チェック項目は概ねA・Bがほとんどだった。 ○教職員研修は同和問題を取り上げた講演会を実施した。保護者研修会はDVD研修を中心にLGBTについての研修を行った。アンケート結果では概ね好評だった。	B	○幼児児童生徒への人権教育の充実。 ○マスコットキャラクターの効果的な活用。 ○教職員・保護者研修会の充実。
中間評価 (10月末現在)	進捗状況： a 概ね順調 <b>⑤</b> やや遅れている    c 目標の見直し マスコットキャラクターの活用については、新たに中学部のあいさつ運動に参加している。アピール度は増したように感じている。幼児児童生徒の人権教育については、今のところ実施された部は中学部の道徳での人権学習だけであるが、ほぼ計画通りに実施することができているが、内容が少し難しい所もあった。教職員研修については、講演会を実施した。例年より参加者が少なかった。			具体的な方策 ○年間指導計画や目標の設定。 ○マスコットキャラクターが活用できる機会を分掌部内で再検討する。 ○他校からの情報収集や、研修会での情報などを参考に内容を検討する。		

【評定】 A：十分達成(100%程度)    B：概ね達成(80%程度)    C：変化の兆し(50%程度)    D： まだ不十分(30%程度)

平成29年度 学 校 自 己 評 価 票

目 標	望ましい態度やマナー、基本的な生活習慣の育成を図る
-----	---------------------------

分 掌 等	
生徒指導部	

( 1 枚中1 枚目)

年 度 当 初				年 度 末		
重 点 目 標	目標達成の具体的方策	め ざ す 姿	評 価 基 準・指 標	年度末評価	評定	次年度への課題
生徒が安心して学校生活を送れるよう、家庭や地域社会、警察、医療、福祉、などの関係機関と連携を図り、継続的に指導を行う。	○挨拶運動、服装等のマナー指導やルール遵守の徹底し、基本的な生活態度を育てる。 ○地域社会への奉仕活動や交流活動を通し、社会性、協調性を養う。 ○自立通学について実態を把握し、ルールやモラルを守って利用する態度を養う。	○学校全体としてすべての職員で生徒指導に取り組む。 ○基本的な生活習慣の育成を図る。 ○社会のルールを守り自ら安全を守る意識を身につける。	○生徒指導部だけでなくすべての職員と連携を密に生徒を指導することができたか。 ○問題行動の未然防止・早期指導に努めたか。 ○規範意識を体得できるように支援ができたか。	○搜索時など他学部や寄宿舎の職員の協力により、無事に発見することができた。街頭指導では全職員が交代で校門前など指導に立ち、交通安全を伝えることができた。 ○各種の教室を開くことで、様々なトラブルを未然に防ぐ方策を伝えることができた。 ○全職員が手本となることで、幼児、児童、生徒の規範意識を高めることができた。	B	○校内での重大な問題はなかったが、放課後や校外でのトラブルを起こすケースが増えてきている。日頃からの規範意識を高める必要を感じた。交通安全については大きな事故はなかったが、自転車での事故が増えているので必要に応じて注意喚起をし、安全意識を高めることが望ましいと思う。
						具体的な方策
中間評価 (10月末現在)	進捗状況： <input checked="" type="radio"/> a 概ね順調      b やや遅れている      c 目標の見直し					
	具体的な記述 年度当初は交通事故などがあったが、今は落ち着いてきている。児童生徒の問題行動は発生しているが、職員間の連携や協力体制をとることで解決を図ることができている。今後も子どもたちが安全安心して学校生活を送ることができる体制を続けたい。					
				○社会のルールを守るために、日頃から言葉掛けを行いルールやマナーを意識つけるようにする。また、交通安全についても状況に応じた指導を継続する。		

【評定】 A：十分達成(100%程度)    B：概ね達成(80%程度)    C：変化の兆し(50%程度)    D： まだ不十分(30%程度)

平成29年度 学校自己評価票

目 標	各活動を通して、経験を広め積極的な態度を養い、社会性や豊かな人間性を育む
-----	--------------------------------------

分 掌 等	
特別活動部	

( 1枚中1枚目)

年 度 当 初				年 度 末		
重 点 目 標	目標達成の具体的方策	め ざ す 姿	評 価 基 準・指 標	年度末評価	評 定	次年度への課題
幼児児童生徒が、主体性をもって生き生きと取り組めるように、学校行事をはじめとした各活動の計画・推進をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○幼児児童生徒の特性や経験等を考慮し、各活動の目標・内容・実践方法等の計画を立てて実施する。</li> <li>○児童生徒会、学校行事、部活動等の係間の連携を図る。</li> <li>○運動会・体育祭の内容検討及び計画・実施。</li> <li>○学校祭の内容検討及び関係機関との連携調整を図りながら、企画・運営に取り組む。</li> <li>○児童生徒会の学校行事における活動の幅を広げる。</li> <li>○次年度への課題、引き継ぎを確実にし、各活動の活性化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校全体で取り組み、充実感や達成感が得られるよう計画・実施する。</li> <li>○幼児児童生徒が主体的に活動し、その経験を学校生活に生かすことができるよう推進していく。</li> <li>○連携および協力体制の確立。</li> <li>○来年度の活性化につながる企画・運営。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校全体で取り組み、連携して実践することができたか。</li> <li>○幼児児童生徒にとって効果的な学習の場を作ることができたか。</li> <li>○学校行事に対する早めの対応ができたか。</li> <li>○企画、立案、反省等を次年度につなげることができるよう、まとめることができたか。</li> </ul>	新聞制作や学校祭前日祭の実施で児童・生徒会活動の連携について踏み込むことができた。また、分掌内の職員の連携でスムーズに運営でき、子どもたちが主体性をもって活動に取り組むことができるようサポートできていた。運動会、体育祭、学校祭等の学校行事では、分掌内外で必要に応じて連携することができ、学校全体で連帯感をもって取り組むことができた。また、要所所で児童生徒会の活動を計画・実施することで効果的な学習の場を作ることができた。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒会活動の連携および活動の充実に向けての取り組み方の確立</li> <li>・学校行事、児童生徒会、部活動等の課題の把握</li> </ul>
中間評価 (10月末現在)	進捗状況: <input checked="" type="radio"/> a 概ね順調    b やや遅れている    c 目標の見直し  児童・生徒会活動の連携・共同学習として、児童・生徒会新聞「みんなの中部新聞」の作成に取り組んだ。編集長など、役割決めや、新聞名をはじめ記事の内容決めなど、生徒が話し合ったり、指導者に助言をもらったりして、主体的に進めていくことができた。11月末に予定している学校祭に向けても、幼児児童生徒が主体性をもって活動できるように各部署で早めの計画がされていっている。				B	具体的な方策  ・新聞制作の時期や内容、実施方法の検討 ・学校祭前日祭・学校祭の内容、実施方法の検討 ・学期末ごとに各活動の反省と課題を明確にし分掌内で共通理解を図る。

平成29年度 学校自己評価票

目 標	保護者・教員に必要な情報を提供する。
-----	--------------------

分 掌 等	
進路指導部	

( 1 枚中1 枚目)

年 度 当 初				年 度 末		
重 点 目 標	目標達成の具体的方策	め ざ す 姿	評 価 基 準・指 標	年度末評価	評定	次年度への課題
<p>高等部卒業後の進路状況と課題について明確にする。</p>	<p>○保護者主催の「第15回施設サービス等の説明会」(6月中旬実施予定)に協力し、保護者・施設側双方のニーズや課題を紹介する。                      ※保護者研修会の内容については、「進路ガイド」と「福祉用語集」の活用の仕方について説明する。                      ○保護者進路研修会(9月・1月実施予定)や、職員研修会(8月実施予定)を活用して、28年度の進路状況や問題点、今年度の進路開拓最新情報及び今後の展開等について紹介する。                      ○進路指導部内での研修会(①職業教育※職場見学含む②進路資料(福祉施設等)の整理を定期で行い、各部の部会等を通して情報の共有化を図る。新転任者を中心に本校の進路についての研修会を実施予定。                      ○高等部の現場実習と校内実習、作業学習の設定を今年度新たに組み合わせることで進路支援について適切であるか検討する。                      ○夏季休業期間での施設訪問研修を設定する。</p>	<p>○新たな情報や、変化しようとするシステムを確認整理していくことで、個々が活用できるサービスを正確に把握することができるようになる。                      ○最新情報を入手・整理し、関係者で情報共有できる手段を得ることができるようになる。                      ○生徒個々の進路について具体的な課題を整理しやすい体制を整えることができる。</p>	<p>○保護者代表者との定期的な意見交換を行うことができたか。                      ○各部進路係を窓口とした職員間の定期的な意見交換を行うことができたか。                      ○進路指導部内で、定期的な研修を通して、情報の共有化を図ることができたか。                      ○各施設や関連機関と連携し、個々が納得できる進路設定を支援することができたか。</p>	<p>PTA親の会と連携して新規の福祉サービス事業所の情報交換や進路ガイドについて不定期であるが意見交換を行うことができた。高等部の進路指導部では、企業就労や福祉サービスについて情報提供することはできたが、小・中学部への連携が不十分であった。</p>	B	<p>親の会主催の福祉サービス事業所説明会は、年1回として、必要であれば追加する。小・中・高1保護者研修会も年1回で話ができるようにする。進路だよりについて検討。</p>
<p>中間評価 (10月末現在)</p>	<p>進捗状況： a 概ね順調 b やや遅れている c 目標の見直し</p> <p>保護者主催の福祉サービス事業所説明会は、親の会のニーズに合わせて例年通り実施することができた。小中保護者研修会は、今年度高等部1年生の保護者も対象に9月に実施した。授業参観日に合わせることで、参加も多かった。進路指導部内での研修は不十分になっている。現場実習に関しては校内作業を作業学習の内容でピックアップして、学校祭や商店街販売にカバーすることもでき、職員も他の作業班の内容に関わることで幅が広がった。実習中の作業学習が少なくて困る班もあった。夏季休業中の追指導を順調である。</p>					<p>具体的な方策</p> <p>職員・保護者に進路について具体的なイメージがわきやすいように、卒業生をモデルにした事例などが紹介できるようにする。進路指導部としてのテーマ(キャリア教育)を決めて定期的に話し合いをする。</p>

【評定】 A：十分達成(100%程度) B：概ね達成(80%程度) C：変化の兆し(50%程度) D：まだ不十分(30%程度)

平成29年度 学校自己評価票

目 標	幼児児童生徒が安全に学校生活を送ることができ、心身の障害の状態や特性を考慮しながら、基本的な生活習慣と基礎体力の向上に努める。
-----	---

分 掌 等	
保健指導部	

( 1 枚中1 枚目)

年 度 当 初				年 度 末		
重 点 目 標	目標達成の具体的方策	め ざ す 姿	評 価 基 準・指 標	年度末評価	評定	次年度への課題
健やかに成長するための基本的な生活習慣の確立をめざす。	○食事や睡眠時間などの基本的な生活リズムの向上を目指し、日常での指導の充実を図る。 ○保護者の理解と協力を得ながら、基本的な生活習慣の定着を図る継続的な取り組みを進める。	○自分の生活を振り返り、望ましい生活習慣を身に付けることができる。	○基本的な生活習慣の定着と基礎体力向上のため、継続的な日常での指導を行うことができたか。 ○保護者の理解と協力を得て、家庭において取り組みやすい環境を整えることができたか。	○基本的な生活習慣の確立は、保護者や担任と連絡を取り合い、日常での継続的な指導を積み重ねてきた。 ○昨年度に引き続き、個別的に、保護者も含めて肥満指導を実施した。 ○性に関する指導の公開授業や、外部講師を招いての授業を行い、それぞれの発達段階に応じた指導を行うことができた。 ○保護者研修会・座談会を行い、意見や要望を聞くことができた。 ○年度途中でのアレルギー対応があったが、児童・生徒に合った対応をするよう話し合うことができた。	B	○基本的な生活習慣は、幼児児童生徒の実態をふまえながら継続的に指導していく。 ○生徒指導部、寄宿舎などの連携が必要。 ○職員全体の意識を高めるための情報発信が必要。 ○保護者研修会への参加を促す周知方法を検討する。 ○アレルギー対応については、速やかに受診、面談、対応委員会を開くようにする。
性に関する指導の充実と定着をはかる。	○それぞれの発達段階に応じた指導内容や教材を精選し、日常でも継続的に支援する。 ○保護者からの意見や要望を聞き、授業や日常の支援に生かす。	○性に関する指導の内容を理解することができる。 ○授業で学んだ内容を日常生活で定着させることができる。	○それぞれの発達段階に応じた指導を行うことができたか。	○性に関する指導の公開授業や、外部講師を招いての授業を行い、それぞれの発達段階に応じた指導を行うことができた。 ○保護者研修会・座談会を行い、意見や要望を聞くことができた。 ○年度途中でのアレルギー対応があったが、児童・生徒に合った対応をするよう話し合うことができた。		具体的な方策
適切なアレルギー対応策を検討する。	○アレルギー対応について、保護者アンケートをもとに、学校や家庭が連携して、具体的に綿密な対応が取れるように努める。	○保護者と学校が連携して支援することができる。	○保護者からの意見や要望を聞くことができたか。			○基本的な生活習慣は、家族と連携しながら日常での継続的な指導を続ける。 ○年間指導計画を充実させる。 ○生徒指導部や寄宿舎との連携をとりながら対応にあたる。 ○教材教具、データの整理と周知。 ○保護者と意見交換を行いながら、研修会を行う。 ○アレルギー対応は、引き続きその都度実施していく。
中 間 評 価 (10月末現在)	<p>進捗状況： a 概ね順調      b やや遅れている      c 目標の見直し</p> <p>基本的な生活習慣の確立では、保健だより等で啓発に努めたり、保護者や担任と連絡を取り合いながら、日常での継続的な支援・指導を積み重ねたりしている。各部でそれぞれのグループに分かれて性に関する授業を行い、発達段階に応じた教材を工夫することができた。指導内容が定着するように、日常生活でも指導を継続している。6月に保護者アンケートを行い、悩みや質問に対して、学校医と相談しながら「あげは」で回答することができた。 アレルギー対策では、学校と家庭が連携しながら保護者の要望を取り入れており、具体的な対応を今後とも取っていきたい。</p>					

【評定】 A：十分達成(100%程度)  B：概ね達成(80%程度) C：変化の兆し(50%程度) D：まだ不十分(30%程度)

平成29年度 学校自己評価票

目標	災害に備えた危機管理能力の向上を図る。 気持ちよく学習に取り組むことのできる安全で美しい環境づくりを行う。
----	--

分掌等	
環境整備部	

(1枚中1枚目)

年度当初			年度末			
重点目標	目標達成の具体的方策	めざす姿	評価基準・指標	年度末評価	評定	次年度への課題
<p>○校内環境の整備を行うとともに、地震や火事等に備えた防災訓練の体験を通して、危機管理能力や防災意識を高める。</p> <p>○清掃活動や花の栽培などの活動を通して、校内の美化や緑化を行う。</p>	<p>○安全点検の呼びかけ及び点検、校舎内外の巡視（避難経路の確保、危険箇所の点検等）を実施する。</p> <p>○事務部との連携をもち、危険箇所の修繕依頼を迅速に行い、危険回避を行う。</p> <p>○防災訓練（火災、地震）を実施する。</p> <p>○職員への災害時（火災、地震）の対応や備えについての研修を行うことで、災害に備えた知識や危機管理意識の向上に努める。</p>	<p>○幼児児童生徒が安全に施設を利用できるように危険箇所がないか安全点検を実施し、校舎内外及び教室環境の整備に努める。</p> <p>○発見した危険箇所等の修繕等の必要性への意識をもてるようになる。</p> <p>○火災や地震などへの対応における危機管理能力を高め、幼児児童生徒や自分自身の安全確保及び避難誘導、災害時の対応等が迅速かつ確実にできるようにする。</p>	<p>○幼児児童生徒が安全に学習活動に取り組める環境を整えられたか。</p> <p>○火災や地震を想定した防災訓練の実施において、幼児児童生徒の安全確保や避難誘導がスムーズにできたか。</p> <p>○職員研修や防災訓練を通して、火災や地震への対応や備えについて個々の危機管理意識を高められたか。</p>	<p>【施設設備・防災】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設設備の面では、自転車置き場の西側に簡易フェンスで囲いをして廃棄するものを置くようにした。</li> <li>コンテナ設置に合わせて各部の協力を得て不要なものをコンテナに積み込む作業ができた。習慣化していきたい。</li> <li>南倉庫のテント用棚の改修で、テントを危険ないように収納できる環境が整った。</li> </ul> <p>【清掃・緑化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>敷地面積の広い学校であるため、目の届きにくい場所もあり、清掃を行ったり、緑化環境を整えたりするための計画を進めるうえで難しい点がある。</li> <li>清掃用具を整理し、新学期すぐに指導を行えるようにしたい。</li> </ul>	B	<p>【施設設備・防災】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>行事等の時の校外駐車場の確保及び駐車場がスムーズに行えるための協力体制の構築。</li> <li>地域（自治会、近隣施設、スクールバス経路の自治会など）との連携について、協力体制を構築する。</li> <li>夏季休業中の職員研修の参加者を増やし積み重ねができるようにする。</li> </ul> <p>【清掃・緑化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>敷地面積の広い学校であるため、目の届きにくい場所もあり、清掃を行ったり、緑化環境を整えたりするための計画を進めるうえで難しい点がある。</li> <li>清掃用具を整理し、新学期すぐに指導を行えるようにしたい。</li> </ul>
	<p>○緑化の知識を高め、植栽および栽培を計画的に行う。</p> <p>○身の回りの清掃等を行い、校内の美化に努める。</p> <p>○5Sを意識し、環境の整備や業務の整理に取り組むことができるようになる。</p>	<p>○緑化計画に従って、校内の緑化や栽培活動に取り組み、緑化環境を整えられたか。</p> <p>○進んで清掃活動に取り組めたか。</p> <p>○5Sの意識をもち、環境の整備や業務の整理に取り組むことができたか。</p>	<p>○緑化計画に従って、校内の緑化や栽培活動に取り組み、緑化環境を整えられたか。</p> <p>○進んで清掃活動に取り組めたか。</p> <p>○5Sの意識をもち、環境の整備や業務の整理に取り組むことができたか。</p>	<p>【施設設備・防災】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校内環境整備面では、防災訓練を契機に廊下等の教材教具の片付けや整理整頓について考えることができた。また、年間2回の職員作業と廃棄物コンテナ設置で、古くからの教具や備品等の廃棄ができ、校内の整理整頓や修繕が進んでいると感じる。</li> <li>防災については、学校防災アドバイザー派遣事業を受け、学校外からの意見や考えを聞く中から現状でできる防災や備え（備蓄用の水、備蓄品アンケート）について今までと違う面から考える機会となった。教職員の意識面では、防災訓練後のアンケート調査から、防災についての意識の高まりとして、避難経路の確認や非常持ち出しについての話し合いなどが行われていることが伺える。12月には、防災アドバイザーによる職員研修が計画されている。</li> <li>【清掃・緑化】</li> <li>校内美化については、全校、各部の行事前、月末、学期毎に職員が協力して適正に清掃や除草作業等ができています。</li> <li>校内緑化は、緑化担当を中心に、各部で工夫した教育内容の実施と植栽教育がなされている。また、高等部の園芸班の学習活動により、常に季節の花が校門や体育館、事務室周辺を彩っている。落ち葉の堆肥化については、予算等を提出し、検討中である。</li> </ul>		<p>【施設設備・防災】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高養、リハ、JRA等の駐車については引き続き係からの働きかけをすると共に、見直すところは見直して職員の意識を深めるよう働きかける。</li> <li>年度の初めに防災計画を読み合わせる学校もあるようなので部毎に実施してはどうか。</li> <li>地域との連携について協議の場を設ける（他校の現状などを調査して）</li> <li>公共機関の実施する研修などを利用する。（香川大学危機管理センター、防災アドバイザー派遣事業等）</li> </ul> <p>【清掃・緑化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>清掃用具の希望調査等を年度内に行い、計画的な購入で次年度に備える。</li> <li>清掃区域割りを見直して、清掃区域の漏れがないようにする。</li> <li>校内緑化を高等部の作業学習・職業訓練での環境活動の取り組みの一つとする。</li> </ul>
中間評価 (10月末現在)	進捗状況： a 概ね順調      b やや遅れている      c 目標の見直し					具体的な方策

【評定】 A：十分達成(100%程度)    B：概ね達成(80%程度)    C：変化の兆し(50%程度)    D：まだ不十分(30%程度)

## 平成29年度 学校自己評価票

6月に各地区別の職員集会を設け、年間計画を周知する。

目 標	学校と連携・協力体制をとり、PTAおよび同窓会のスムーズな活動・運営を目指す。
-----	---

分 掌 等	
庶務部	

( 1 枚中 1 枚目)

年 度 当 初				年 度 末		
重 点 目 標	目 標 達 成 の 具 体 的 方 策	め ざ す 姿	評 価 基 準 ・ 指 標	年 度 末 評 価	評 定	次 年 度 へ の 課 題
学校とPTAとの連携を図り、中四国PTA連絡協議会（香川県開催）への参加協力体制を整える。 保護者や在校生に同窓会活動についての理解を図る。	○昨年度の体制をもとに、PTA本部役員と学級理事、学校の三者の積極的な参加協力体制を模索しながら運営する。 ○掲示物を通して、保護者や在校生に同窓会の活動内容を知らせる。	P T A および同窓会が、学校と協力体制をとりながら、スムーズな運営をすることができる。	○ P T A と同窓会が学校と連携をとりながら活動できたか。 ○保護者や在校生に同窓会の活動内容を適宜知らせることができたか。	○ P T A 行事の運営に、P T A 役員はもちろん多くの学級理事の協力や参加を得ることができ、滞りなく行うことができた。学級理事の仕事内容についての理解が広がっている。 ○同窓会行事では、10月は非常変災のため中止となったが、その他は多くの職員の参加協力のもと無事に終了することができた。また今年度初めて、学校祭で活動内容の掲示物により同窓会行事について周知することができた。	<b>B</b>	○ P T A 活動や学級理事の活動内容への周知を広めて、P T A 会員の取り組みへの啓発をする。 ○同窓会行事への教職員の参加費についての見直しや、台風等非常変災時の活動への対応について検討する。また、学校祭での活動紹介については、より広く周知することを目指して、掲示場所などを検討して継続する。
中 間 評 価 (10月末現在)	進捗状況：      a 概ね順調      b やや遅れている      c 目標の見直し ○ P T A 本部役員と学校が連携して取り組み、10月6・7日に行われた中四国 P T A 連絡協議会（香川大会）の運営に協力し、約40名の保護者や職員の参加を得ることができ有意義であった。 ○同窓会の活動の様子を多くの人に楽しく気軽に見て関心をもってもらうことや、同窓会活動への参加・啓発を目指して、写真を使った掲示物作りに取り組んでいる。					
				具 体 的 な 方 策 ○教職員や P T A 会員に対して、年度末や次年度初めに学級理事の仕事内容についての周知を行い、理解を促す。 ○庶務部内の担当職員を中心に見直しを行い、よりよい参加体制を整えていく。		

【評】【評定】      A：十分達成(100%程度)      B：概ね達成(80%程度)      C：変化の兆し(50%程度)      D：まだ不十分(30%程度)

平成29年度 学校自己評価票

目標	地域の特別支援教育のセンター的役割を果たす。 校内支援の充実を図る。
----	---------------------------------------

分掌等	
相談支援部	

(1枚中1枚目)

年度当初				年度末			
重点目標	目標達成の具体的方策	めざす姿	評価基準・指標	年度末評価	評定	次年度への課題	
地域の教員や保護者の相談に積極的に応じるとともに、教育研修の機会の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「学びと育ちの相談センター」の広報をし、相談体制を整える。</li> <li>○連携訪問・巡回相談を実施する。</li> <li>○交流会や公開講座を実施し、教育相談を受けたり、教員の専門性の向上を目指した研修会を実施する。</li> <li>○教材教具展を実施し、障害児者の指導に役立つ教材教具の情報を提供する。</li> <li>○相談週間を設け、相談に応える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の教員や保護者の悩みに適切に対応することができる。</li> <li>○教員の専門性と実践力の向上のための支援を行うことができ、障害についての理解を深めることができる。</li> <li>○地域連携の推進力となることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○相談内容やニーズに応じて適切に対応することができたか。</li> <li>○専門性を高めるための研修会や情報提供が提供できたか。</li> <li>○地域との連携を進めることができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○連携訪問、巡回相談、交流会や公開講座についても予定通りに行うことができた。地域のセンター的役割を果たすことができた。また、公開講座や教材・教具展については、地域の教員のみならず、校内支援として本校の教員への支援としても役立つことができた。研修内容も教員の障害への知識や理解を深めることができるものであった。</li> <li>○スクールカウンセラーによるカウンセリングは、要望に応じて実施できており、その後の担任への報告等も確実にできている。さらに、分掌内での共通理解も図ることができた。また、本年度初めてカウンセラーによる全体研修会を開催することができ、本校でのカウンセリングの状況等を伝えることができた。</li> <li>○校内支援として、本年度も職員室前の掲示板を活用して、各学部での取り組みなどの紹介を行うことによって教員への情報提供を行うことができた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「個別の教育支援計画」、サポートファイル「かけはし」、高松市が実施している「移行支援シート」の関連について話し合い、その取扱い等について検討する。「個別の教育支援計画」について様式も含め、課題はないか検討する。</li> <li>○ほっとタイムの取り組みをどうするか再考する。</li> <li>○スクールカウンセラーの持ち時間が少ないため、申し込み数に応じて時間配分や取り組み方を考える必要がある。今後も県教委に対して時間数や来校回数を増やしてもらるように働きかけていく。</li> </ul>	
校内支援として、研修会の充実や適切な情報提供を図るとともに、教員や児童生徒への相談体制を整える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「個別の教育支援計画」、サポートファイル「かけはし」、「個別の指導計画」の関係性や内容、記入における留意点についての研修会、連携訪問・巡回相談についての報告会、センター的役割や障害児者への支援について等の研修会や公開講座を実施し、障害児教育についての専門性を高める。</li> <li>○教材教具展を実施し、障害児者の指導に役立つ教材教具についての情報提供をする。</li> <li>○生徒を対象としたほっとタイム(定期相談)や児童生徒、保護者、職員対象のスクールカウンセラーによる教育相談を実施する。スクールカウンセラーによる本校の相談事例についてや職員の対応の仕方等についての研修会を実施してもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○幼児児童生徒の指導や保護者への理解を深め、専門性を高めるための研修内容を適切に設定することができる。</li> <li>○スクールカウンセラーと連携し、児童生徒、保護者、職員の相談が適切に実施できるようにすることができる。また、ほっとタイムに来る生徒に対して担任と連携をとって適切に対応することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研修内容が幼児児童生徒の指導や保護者への説明等に役立つものであったか。また、職員の障害児への理解や知識を深めるものであったか。</li> <li>○ほっとタイムやカウンセリングを通して児童生徒、保護者、職員の悩みを適切に把握し、対応できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校内支援として、本年度も職員室前の掲示板を活用して、各学部での取り組みなどの紹介を行うことによって教員への情報提供を行うことができた。</li> </ul>		<p>具体的な方策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「個別の教育支援計画」等について、各学部で話し合い、必要に応じて教育支援計画委員会を開いて全体で検討していく。</li> <li>○ほっとタイムについて、分掌内で取り組み方について常に検討するとともに、学部の意見を聞くなどして考えていく。</li> <li>○スクールカウンセラーの活用についての記録を取り、県へ要望をしていく。</li> </ul>	
中間評価 (10月末現在)	<p>進捗状況: a 概ね順調 b やや遅れている c 目標の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○研修会や教材教具展は、予定通りに開催することができ、地域の教員や本校の職員の専門性を高めるために役立てることができた。</li> <li>○「学びと育ちの相談センター」の広報のため、あらゆる機会を利用してパンフレットを配り、宣伝した結果、今年度は相談件数が増えている。</li> <li>○「個別の教育支援計画」、サポートファイル「かけはし」、「個別の指導計画」の関係性や内容、記入における留意点についての研修会を各学部で実施した。</li> </ul>						

平成29年度 学校自己評価票

目標	自立をめざし生活する力を育てる。
----	------------------

分 掌 等	
泉務部	

( 1 枚中1 枚目)

年 度 当 初				年 度 末		
重 点 目 標	目標達成の具体的方策	め ざ す 姿	評 価 基 準・指 標	年度末評価	評定	次年度への課題
家庭・学校との連携を図り、豊かな心を育てるとともに、個別的教育指導計画に基づき目標達成を目指す。	<p>○個別の生活指導計画に基づき、目標を設定・周知し、日々の指導や引き継ぎの中で有効な手立てについて話し合う。また、ケース会やグループ会で個々の課題に対する指導方法についての話し合いを深め、職員間の意思疎通を図り、適切な指導を行う。</p> <p>○日々の生活指導や『ぶらす講座』を通して、道徳的な要素を盛り込み、お互いを認め合う気持ちや好ましい男女交際、人との適切な距離感についての話を深め、相手を思いやる気持ちを育てる。</p> <p>○キャリア教育について、自治会指導や生活指導の中で、自尊感情や自ら発信できる力・自己決定できる力を育てる。</p> <p>○保護者会と保護者懇談会は保護者の参加しやすい日程で実施し、個別の生活指導計画に基づいた話し合いを深める。また、学担との情報交換会も行い、連携を深める。</p>	<p>○目標を達成した状態で寄宿舎生活を終え、寄宿舎で培った生活力・自立の力が家庭においても十分に発揮でき、将来につながる力となる。</p> <p>○日々の指導や『ぶらす講座』を通して道徳心を養い、良好な人間関係が結べるようになる。</p>	<p>○個別の生活指導計画に基づき、目標達成に向け適切な指導ができたか。手立ては有効であったか。</p> <p>○『ぶらす講座』は、計画通り実施できたか。</p> <p>○キャリア教育の視点をもつて、生活指導や自治会指導ができたか。</p> <p>○保護者会・保護者懇談会・学担との情報交換会は計画通り実施できたか。</p>	<p>○各個人の目標、手立てを引継ぎ簿に添付し、全指導員で共有した。個々の目標を理解し支援にあたった結果、目標達成する生徒が増えてきた。寄宿舎で培った生活力、自立の力を家庭や社会で生かされるように今後も努力が必要である。</p> <p>○『ぶらす講座』は、計画通りに実施できている。年齢相応の社会的マナーを重視して取り組んでいる。生徒も内容をよく理解できていた。</p> <p>○自治会活動については、中心となる舎生が部活などで不在となり、十分に話し合う時間が取りにくかった。そこで、部員全員の意見をまとめるために会をそれぞれ2回もつなどの工夫をした。また、障がいの多様化により安全面を重視した日々の指導に重点が置かれ、自主性を養う細かい指導が不十分になりがちである。</p> <p>○保護者会・保護者懇談会・学担との情報交換会は計画通りに実施できた。個別の生活指導計画に基づいた話し合いを学担・保護者・寄宿舎の3者ですること、支援を深めることができています。</p>	B	<p>○『ぶらす講座』は、社会的マナー、携帯の使用の仕方、性教育等将来に向けた内容を深める必要がある。</p> <p>○自治会活動については、部員が十分に話し合う機会がもてるように日程の調整を必要とする必要がある。</p>
						<p>進捗状況： a 概ね順調    <input type="radio"/> b やや遅れている    c 目標の見直し</p> <p>個別の生活指導計画に基づき、学担・保護者と目標の確認をしあっている。個々の目標を各階指導員が把握して、指導できるように個人の目標、手立てを引継ぎ簿に添付した。そうすることによって、各個人の目標、手立てを全指導員で共有し、支援にあたった結果、目標を達成する生徒が増えてきた。目標の達成が難しい生徒には、手立てを変更して取り組んでいる。引き続き努力していきたい。自治会活動については、生徒中心の活動ができるように支援していく必要がある。『ぶらす講座』学担・保護者との連携については、概ね順調に実施できている。</p>

【評定】 A：十分達成(100%程度)    B：概ね達成(80%程度)    C：変化の兆し(50%程度)    D：まだ不十分(30%程度)